

第2回河内長野市廃棄物減量等推進審議会での主な意見と市の考え方

No.	項目	審議会での意見	市の考え方
1	ふれあい収集について	現在の基準（要介護2）以下でも支援が必要な高齢者がおり、日常生活の実態をよく知る担当のケアマネジャーの意見などにより、ふれあい収集の利用を認めるようにするなど、基準の適用を柔軟に運用できるとよい。（現状では、担当医による判断が必要となっている。）	基準緩和を行ったうえで、利用の必要性判断をどのようにするか検討したい。
2	地域コミュニティへのアプローチについて	自治会に加入していない世帯が4割程度ある現状では、自治会を通じたアプローチだけでは解決が難しい課題もあるのではないかと。	意見の通りであり、コミュニティの基盤である自治会への加入を促しつつも、現状でのごみ出し等が困難な世帯がごみ出しに困らないような施策も検討したい。
3	地域コミュニティへの在り方について	若年層の転入世帯は時間的余裕がなく、地域のお祭りのようなことには関わりづらいと思うが、ごみ出しのことであれば、自分たちのことなので、関わることはできるのではないかと。思う。 「地域の伝統的な活動」と「日常生活に関わる活動」を分け、地域住民にあわせて、自治会活動への参加度合いを変えられないかと思っている。	意見の通りであり、地域の日常生活に関わる活動を行っている自治会の活動は重要であり、未加入者にも理解していただく必要がある。自治会活動の新たな運営方法については、担当部局とも協議していきたい。
4	審議会での議論内容、答申の内容について	元々の諮問の内容を考えると、コミュニティに関する議論は、答申の付帯の内容として取りまとめるなども考えられるのではないかと。ただ、この審議会でもどこまでコミュニティの話に突っ込むことができるのか少し混乱している。	ごみ出しやごみステーション管理は自治会に頼る面が大きいため、自治会のあり方等、コミュニティの議論と不可分であると考えている。一方で、ごみ出しやごみステーション管理は、自治会が担う役割の一部であり、この側面からコミュニティのあり方を整理するのは難しいため、担当部局と連携を密にしながら中長期的に対応していきたい。